

ときわにんにく

青森県産

正しい操作で安全第一

～「ときわにんにく」植え付け～

9月上旬、令和4年産にんにくの植え付け作業が各地区で始まりました。同年産にんにくは、ときわにんにく部会の部会員118人が約70%で作付けを予定しています。

当JA管内では、主に水田転作でにんにくを栽培。秋の長雨の影響を受けると植え付け作業が困難になるため、9月上旬から作業を開始し、中旬まで行いました。

9月15日、70%で栽培する三浦浩二さんの圃場では、畝の上にマルチシートを敷き、植え付け機を使用して作業を行いました。三浦さんは「作業員の確保が難しくなり、労働力不足解消のため今年から植え付け機で植え付けしている。植え付け機の操作や種子の方向に注意して、安全に作業を進めたい」と話しました。



植え付けを行う三浦さんと作業員

収穫時期などを確認

～ぶどう生産部会山選果基準会～

ぶどう生産部会（山口辰弘部会長）は9月17日、尾上青果センターで令和3年産のスチューベンとシャインマスカットの山選果基準会を開き、部会員が収穫と出荷規格を確認しました。

尾上青果センターの齋藤寿徳統括が、スチューベンとシャインマスカットの収穫と出荷規格について説明し、「スチューベンはまんべんなく着色したのから収穫。シャインマスカットは果皮色が黄化したらかすり症が目立ってくるので、適期収穫に努めてほしい」と呼び掛けました。

収穫は9月下旬から10月上旬にピークを迎え、10月下旬まで行われます。JAでは24社の市場へ12月下旬まで16,000箱（1箱2kg）の出荷を計画しています。



出荷規格を確認する部会員